

大和ハウス、未来安全への挑戦

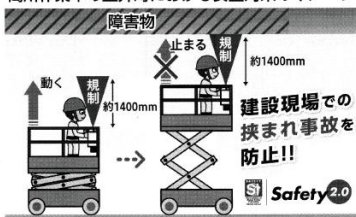


大和ハウス工業
技術本部 安全統括部
戦略グループ 課長

森 朋仁

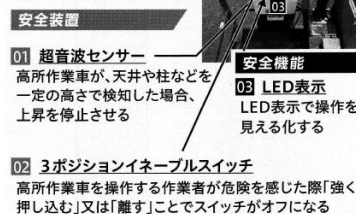
建設業の安全管理に従事。Safety 2.0の視点で高所作業車の挟まれ防止策に取り組んだ。近年は化学物質対策や生成AIによる安全管理にも注力している。

高所作業車の上昇時における安全対策のイメージ



働く人の安全・健康・ウェルビーイング

2つの安全装置で高所作業車の動作をストップ！



高所作業車が、天井や柱などを一定の高さで検知した場合、上昇を停止させる

高所作業車を操作する作業者が危険を感じた際「強く押し込む」又は「離す」ことでスイッチがオフになる

安全機能

LED表示

LED表示で操作を見る化する

働く人の快適職場環境を実現

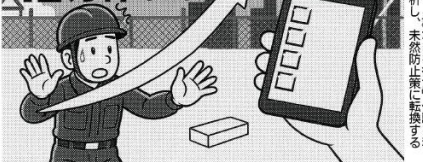
提供。先般、安全衛生管理を行い、準備の「安全性」を踏まえ、急なことに、口頭からリスクを想定した対策をとり、協力会社と連携して、安全な建設現場を実現する。労働災害を減らすため、再発防止策の水準を、不安定な作業環境を、コミュニケーションの大切さを理解する。建設労働者の日々の健康管理を行い、疾病の予防と共有の衛生設備の充実を図る。関係法令改正順守のため、確実な安全衛生管理体制を構築し、全員の安全衛生活動の、凡事徹底を図る。建設業を代表する大和ハウスグループが、安全衛生活動の方向性を図っている。ここから具体的な取り組みを、三つの紹介。

■事例1 高所作業車の上昇時における安全対策。当社は、特に重化傾向の高い、高所作業車における挟まれ事故を防止するための後付け型挟まれ防止装置を開発した。これにより現場での高所作業車上昇時の挟まれ事故ゼロの実現に大きく貢献している。装置は、超微細センサー

高所作業車 挟まれ防止

革新安全技術 Safety 2.0 適合車

大和ハウス工業 新ヒヤリハット 12万件収集

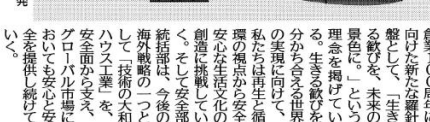


スマホで安全衛生教育

検査・関係できる形で管理されている。これだけのデジタルデータを集めることは、集計量も現場や経営層にフィードバックする体制が構築されている。お、AI・人工知能による自動分析の活用について、現在研究段階にあり、今後の展開が期待されている。これらは実際の現場改善や、リスクに対する感度の向上に大きく貢献している。まさに、安全の先取りを実現する仕組みとして、ハット報告

「うまくいった」「事なきを得た」とは、結果を構造的に分析し、未然防止策に転換する。Forms を活用し、スマートフォンを用いて現場から直接、どこでも、いつでも入力できる仕組みを整備した。収集されたデータは、当社が取りまとめ、内容に応じて分類・タグ付けを行い、クラウドに蓄積・管理している。現在では約12万件を登録（新）ヒヤリハットが登録されており、登録数は2025年10月13日現在、約19.3%減少（日本コンサル調べ）されている。現在、受講数は20万人を超えており、2025年4月（業界）に合わせた任意受講の4講座を開講中。現在は、年間2講座を増やし、充実したカリキュラムにしている。また、時代背景に合わせて、外国人労働者向けや、外国人労働者に指導する日本人向けの講座も準備されている。外国字にも対応し、現在、言語設定が可能なため、これにより当社の現場に入場する外国人の95%は、対応可能としている。今後も安全を軸とした持続可能な社会の実現に向けて、全力で取り組んでいる。

いつでもどこでも関係者の誰でも受講可能な教育を目指して



全ての現場労働者に行き届く安全衛生教育 スマホで学べる ショートラーニング型 WEB講座

生産時間の短縮により労働災害発生件数の減少につなげる

海外戦略の一つとして「技術の大和ハウス工業」を、安全面から支え、グローバル市場において安心と安全を提供し続ける